

営農型ソーラーシェアリングが設置されています。港区に本社があるメガソーラー機構というところが、10haの団地に105基、5kW規模を設置し、営農は地元農家による農業法人が「榊」などの栽培をやっています。そういうタイプとはちょっと違って、鳩山町、桶川市、上尾市では小規模ソーラーシェアリングが設置され、米や野菜などを栽培しています。

それに対して2019年以降、新しいタイプのソーラーシェアリング設置の動きが出てきました。1つは、所沢市です。2019年の12月にノルパと連携した市民組織によるソーラーシェアリングが立ち上げられました。規模は37kW規模で中くらいですけれども、市民組織が主体になって農家と連携してソーラーシェアリングを設置したいというケースです。



それは、農家とか農業者組織による営農型発電ということで松本さんをはじめ主体になって取り組んでいます。加須市民発電所、これは埼玉産直ネットワーク協会と埼玉農民連の共同で、2020年の6月に設置された50kW規模のソーラーシェアリング。それから1年後に松本さんのご自宅に設置された加須第2市民発電所、こういう農家の営農を後押しする文字通りの営農型発電が立ち上げられました。

営農型発電設備の設置にかかわる許可実績 (関東各県)について (令和2年3月末現在)

都道府県	許可件数累計	許可件数(19年)
茨城県	156	45
栃木県	39	20
群馬県	256	59
埼玉県	108	8
千葉県	370	72
神奈川県	48	17
山梨県	107	40
長野県	47	13
静岡県	367	103

まさに埼玉のような、あるいは北関東のような地帯でこそもっと伸びていかなければ、ということでありました。あとはここにいらっしゃる松本さんから説明いただければと思います。



めて1年半ぐらい今経ちますけれども、試算したよりもプラスアルファで発電ができています。私の自宅のところは、去年の4月19日からでして、ようやく1年経って、194〜5万円近くの発電収入でした。この異常気象の中でも、「半農半電」でこれから行けるんだという風に私たちは訴えています。

### ソーラーシェアリング

が、今の日本の平均的な米農家の実情です。私のところではソーラーシェアリング米で2万円〜3万円、倍の値段で買っていたに比べて、

どのくらいのお金が私のところにかかったかというと、1500㎡で約1600万円でした。今後、20年間、発電量がほとんど変わらないだろうというところでの試算ですが、3800から4000万円の総収入があって、そのうち日常の経費がありますから、1800万円から2000万円近くが利益になる計算です。こんなに経費をかけて農産物作って半分近く利益があるなんて考えられないんです。他にはありません。それこそ皆さんが運動してきていることだと思えますが、これが各地で実現したら、日本の経済は地域から活性化されることは間違いありません。

### 課題

問題点が2つあるんです。1つは資金です。やっぱり1600万、まともにかかるわけです。農協がお金を持っています。銀行も持っています。貸せばいいんです。回収は間違いないんですから、わけのわ

### 報告の討論から

## ソーラー農業とすすむ「半農半電」

松本 慎一さん(埼玉農民連副会長)



取り組むきっかけとなったこと

今から5年前に、埼玉自然エネルギー協会の仲丸さん一行が私の事務所に訪ねてきて、これからは自然エネルギーの時代なんだけれども、住宅の屋根だけではなかなか広がらない、土地を持つての農家の協力があって初めて、この活動の広がりが可能になるので一緒にやってみないかって話がありました。たまたま私の会社事務所に300坪の土地があって、半分は余っていたんです。「損しなけりゃいいや」とはじめてみても、確かに買い取り価格は半分になったけれども、パネルなどの資材価格も半分になっていることが分かり、利益が出るということで、半信半疑でやりました。

### 多くの方々の協力を得る中で

からないところに融資などしないので、農家に貸したら環境の問題が起こるわけがありません。

もう1つの問題は、農業委員会の手続き、面倒なんです。これ業者に頼むと10万も取られる。それから期間も半年以上かかるというのは、もう面倒でどうしようもない。

私は農業のプロですから自分1人の力でやりましたが、それでも3か月から半年かかりました。

こちら辺をもっと簡素化して、山の上で作って犠牲者を出すような、そういうところに許認可を出すのではなくて、農家にこそ許可をきちっとやるべきだと思えます。

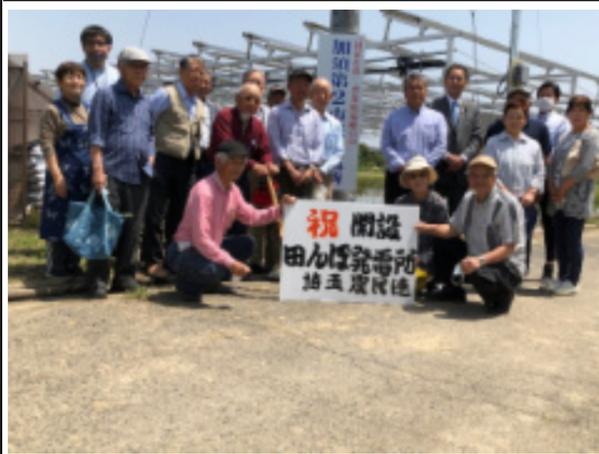
### 報告の討論より

### 生協と農協と埼玉県との協力で

伊藤 恭一さん

私、生協やっていましたので、農協に提案したことがあります。残念ながら耕作放棄地は耕作に戻すためにあるんだと話をされました。ソーラーと農業、できる気がいっぱいあったし、もっと知恵を出せばできるんじゃないかと、あまりにもそっけない返事でした。

それからもう1つは、埼玉県との関係でこういう協力強化ができていくの



私たちは、会社の利益のためということじゃなくて、自然エネルギー協会が言うように、日本の安全安心なエネルギーというところに共鳴していましたので、皆さんにもそのことを訴えようということで協力をお願いしました。そうしたら、約2か月ぐらいの取り組みで百数件の協力者が現れて300万円以上集まったんです。残り約600万円を借りることができ、900万の事業で44kW規模の発電所を作って、一昨年の9月から発電し始



か、働きかけていくことが大切だと思えました。それから、素人考えで申し上げますと、地産地消でできた再生エネルギーをカートリッジみたいにして利用できるようなものが、最近、水素の話聞いたことあって、水素ではそういうことができるようになってきている。それが発展した段階で、家庭の1ヶ月の1週間とか2週間とか、発電したところで詰めてもらって、詰めた人が持つてくるのか、我々が取りに行くのかと、多分デリバリーの問題はありますが、そういうことも含めて、システムとして完成できるんじゃないかな、という風に思っています。

